

## 低所得高齢者の健康状態

(アメリカ)

調査の結果では、老齢扶助の受給者は女子、黒人、および低学歴者に多くまた、南部および南部出身者に多かった。なお、受給者は夫との死別、別居、離婚の女子に多い。受給者の健康状態では、50%が「貧しい」状態で、この比率は扶助を受給していない高齢者の2倍を上まわる。また、健康を損じていたり、体の動きに困難を訴える者も多い。疾病に多いのは循環器、精神、および筋肉の疾患であった。

都市と農村では、受給者数の色いろな状態は、一般に、都市より農村の方が悪い。健康状態も同様な傾向が現われている。保健サービスの利用では、予想に反して、都市と農村に大きな変化は見られなかった。その理由として主な2つの例が示されている。

調査は低所得高齢者の健康状態について、一応予想の正しかったことを示した。この調査報告には、従来発表された各種の報告や論文などを参照しながら、今後さらに検討すべき事柄が、色いろ加えられている。

Health Status Among Low-Income Elderly Persons:  
Rural-Urban Differences, Social Security Bulletin,  
Vol. 41, No. 6, June 1978, PP. 14-26.

(社会保障研究所 平石長久)

## 編集後記

今年の夏はとくに暑く、その暑さは記録的だった。雨の降らない日も多かった。東京では、雨のない連日の猛暑に、葉が変色し、枯死寸前にあえぐ街路樹も現われてきた。しかし、9月になれば、ピンクや白の小さな花をつけた百日紅の枝の上に広がる空に、早くも秋の雲が流れるようになった。日中の陽ざしには、まだ残暑がきびしかったが、朝夕の風は秋の気配を感じさせるようになってきた。能因法師が「……風の音にぞおどろかれぬる」といみじくも詠んだように、雲や風は秋の訪づれを知らせてくれる。

(平石)

---

## 海外社会保障情報 No. 43

---

昭和53年9月30日発行

編集兼発行人 社会保障研究所

〒100 東京都千代田区霞が関3-3-4

電話 03(580)2511

製作所 和光企画出版株式会社03(564)0338

---